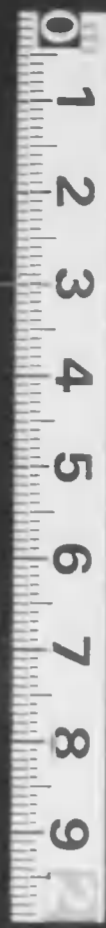


週寫  
報眞

情 報 局 編 輯  
十 七 日 第 二 百 九 十 五 號





ましらすたま  
 眞白玉これはこれ日本の土に實りし米  
 黙々と地に匍ひ陽にさらされ  
 身を楯となして風雨を防ぎ  
 粒々辛苦に實りし  
 これはこれ尊い戦果  
 この戦果民みな戦ふ糧とかて  
 日の丸の旗たてて捧げる心の尊さ  
 朝夕にこの糧に謝し  
 われらただ戦ひに身魂を捧げん  
 これはこれ戦ふ國の戦ふ糧ぞ



新穀を感謝して

幾千代の契り御めでたし東久邇宮盛厚王殿下 同妃成子内親王殿下



東久邇宮盛厚王殿下  
 と照宮成子内親王殿下  
 との御めでたき晴れの  
 御婚儀は、十月十三日、  
 瑞氣たなびく大内山の  
 賢所大前において、い  
 とも厳かに挙げさせら  
 れた  
 決戦下畏くも諸事御  
 簡素にとの御内沙汰な  
 がら、一億蒼生の歡喜  
 は全土に充ち満ちて、  
 竹の園生の彌栄を心  
 から壽き奉つたのであ  
 った

東久邇宮家御貨下



# 輝かしのフィリピン独立の日

十月十四日



撮影 阿波通信社

フィリピンの新国旗は上部分が青、下部分が赤と白の二色で、中央には太陽と三つの星が描かれている。これは日本の国旗とよく似ている。

昭和十八年十月十四日、「フィリピン」國は獨立を宣言し、大東亞共榮圈の一員たる完全な獨立國として光榮の第一歩を踏みだした

即ちこの日、朝、わが比島派遣陸軍最高指揮官黒田重徳中将は、バルガス行政府長官以下を招致し、同日を以てほゞ二年に亘る軍政を撤廢する旨を通達、これによつてわが軍政を離れたフィリピンは、直ちに新獨立國を建設すべく、午前九時四十五分よりマニラ市國會議事堂前廣場で、その歴史的獨立式典を舉行したのである



ワレル大統領の就任演説

黒田最高指揮官軍政の撤廢を通達。寫眞は黒田最高指揮官と握手を交はすワレル大統領

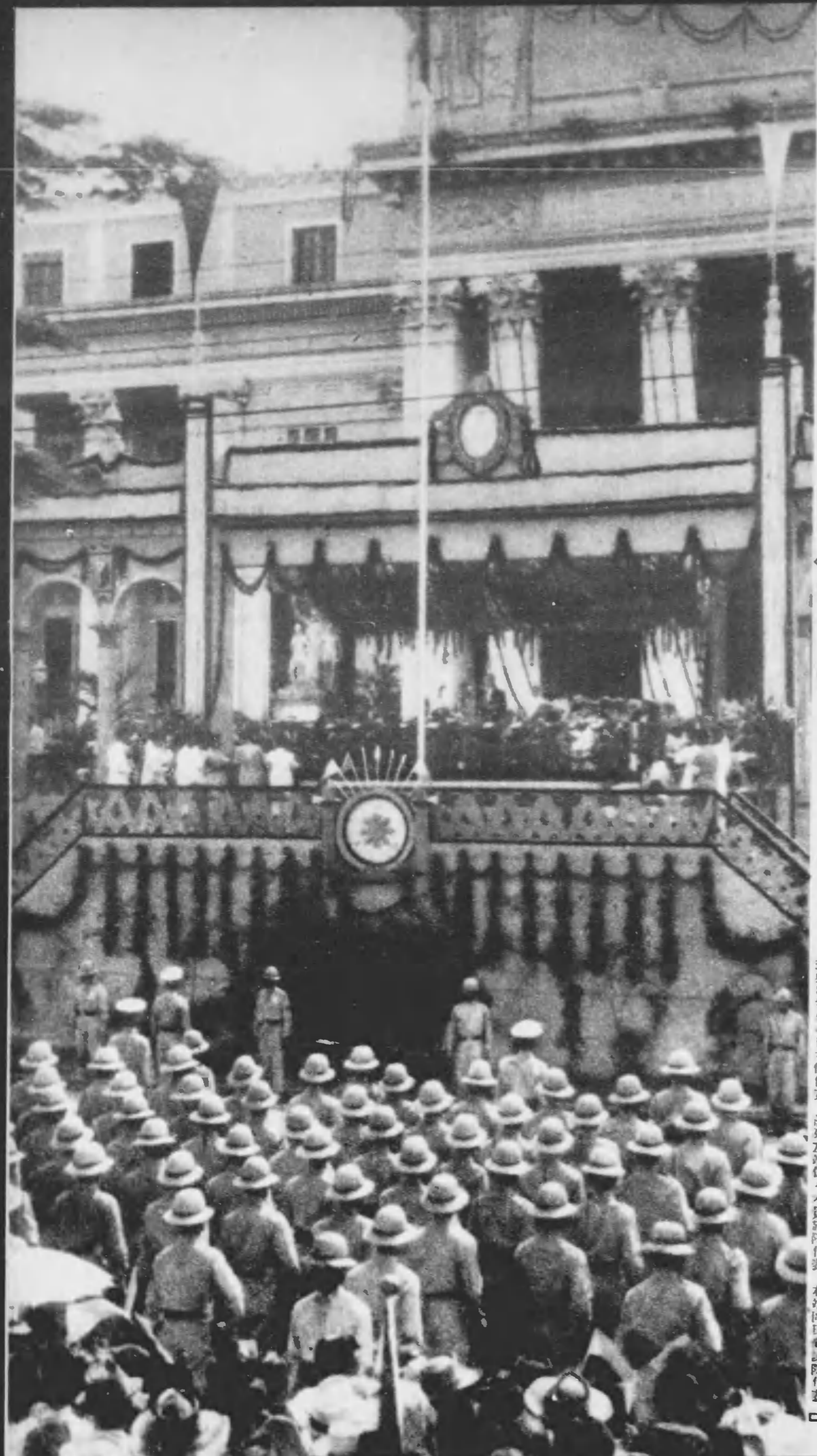


思へば、スペインの領有以來約四百年、スペインに次ぐアメリカの極精下に、千八百万民衆が『比島建設』を目指して戦つて來た努力は、萬邦をしてその所を得しめるわが堅國の大理想の顯現によつて酬いられ遂に強力な新國家は創成を見、勇躍帝國と共に大東亞の建設に、世界新秩序の確立に、相携へて邁進することになつたのである。かくて新比島は、かつての民族的英雄ホセ・リサールが企圖した『南海の眞珠』として光彩を全世界に輝かし得る日を約束されるに至つたのである



壯麗な獨立式典式場

式典に参列の日本側代表、前列左端佐々木武徳院代表、右端岡田義徳院代表







◀ 街角に貼られた日本郵ポスターに見入る少女たち



↑ 日本語の上達を喜ぶ、餘り上手な今日の子供たち。地元の兵隊さんにとりまわられるところもあるらしい

◻ お金を上手にたためて兵隊さんに買物正一ヨナニの挨拶

比島建設につくされた軍政三年の努力は、文化教育の部門にも立派に實を結んで、比島全島にわたって諸學校の網に再開されたもの。公立小學校約一千四百校、私立小學校は五十校に達している。この他、中等學校、專門學校、大學などについても、必要なものは逐次再開がはかられており、獨立した教育施設とした比島教育の健全な發達は十分期待される。日本語の普及も比島人の識字に達するまで比島人一般に學問の心を燃

たことと併せて、マニラなどの都會地ばかりでなく、地方でも目覚ましい進歩をみせてゐる。このサバンガンは山岳部の一僻村で、昔は首狩人種といはれたイロロ族の住む地方であるが、イロロのヨイコタが分隊の兵長先生を中心にして日本語を學ぶ頑固い者は、其集團の一角としてよく起上つた比島の將來を物語る一頁である。



**比島の子らにもこの頼母レキ**  
比島サバンガン  
男の子たちは角力が大好きだ。授業の合間を見れば、バックグロイ、ノコッタ

**軍政三年の努力実を結び**  
元氣一杯なラジオ体操。だが、あまり良く捕はないのに先生も一苦勞







マニラの棉業は、古くから盛んで、現存の棉業は、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラは、棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。



アメリカは、棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。

現在では、棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。



七千餘の島嶼が、自然の恵みを受けて、農業を営んでいる。農業を営んでいる。農業を営んでいる。

棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。棉業の中心地として、マニラに集中している。

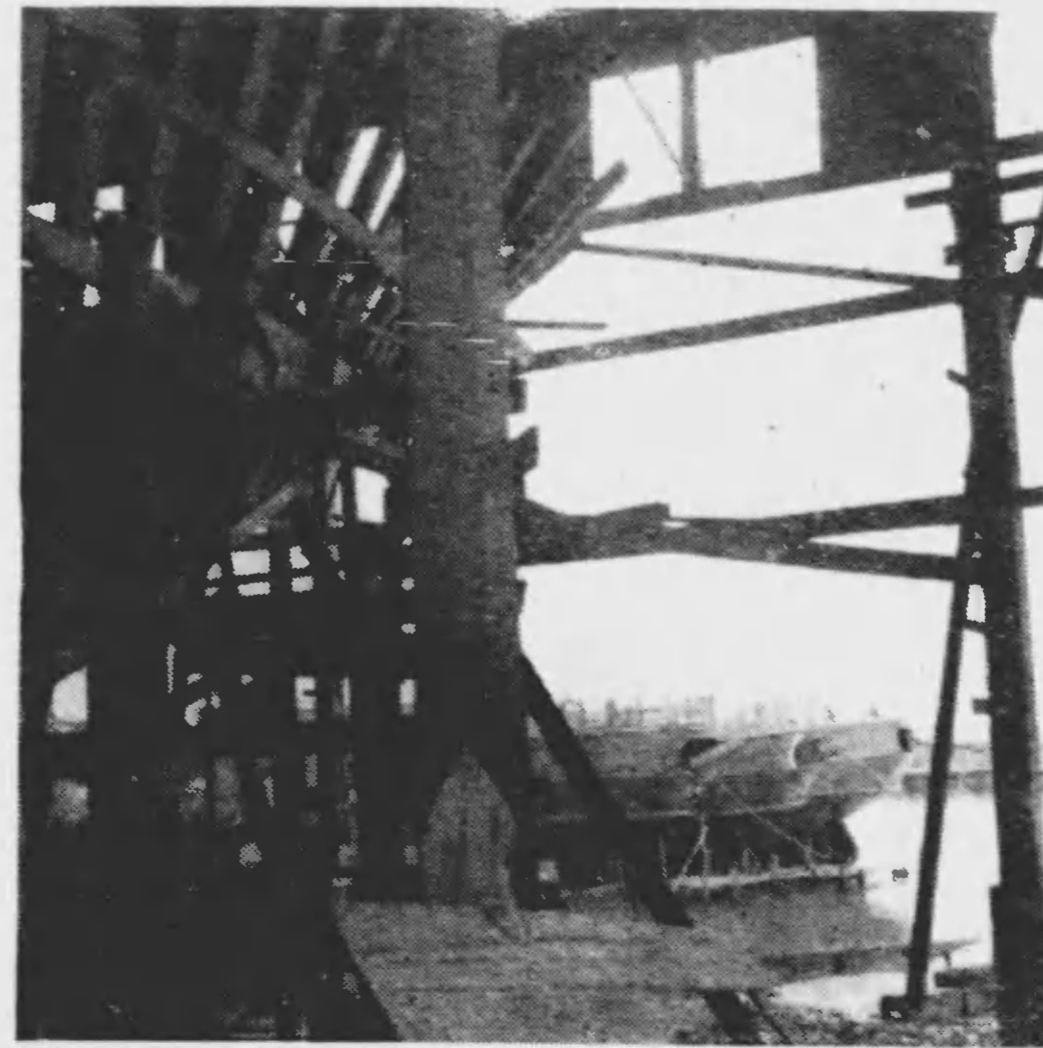
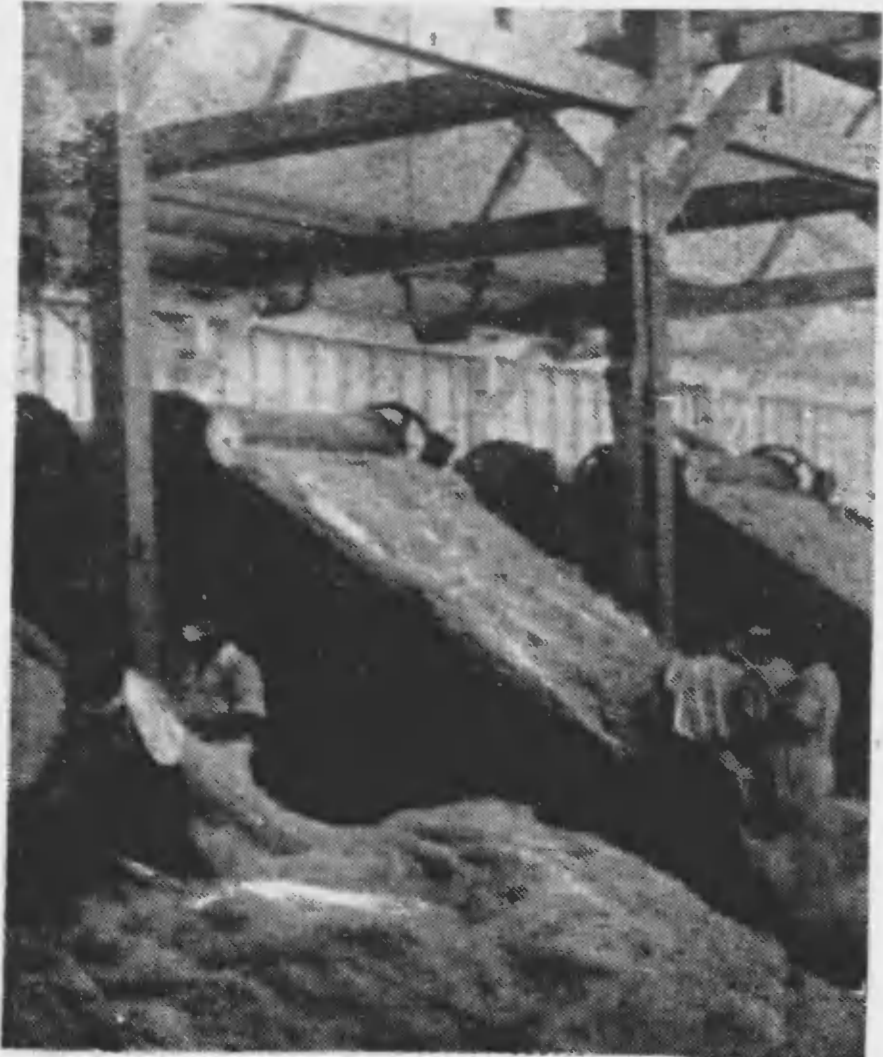
### 比島経済も自主独立へ

アメリカの支配下にあった比島は、最近先づきつけられた「独立」といふ人參を踏みまはして、漸に興へられた馬のやうなものであつた。一九一六年のウィルソン法によつて興へられた自治も、経済的にはまづ「アメリカへの依存を高めるといふ慣習」を打破する好例に過ぎなかつた。

アメリカは比島に學校を興へたといふ。だが、學校は比島人に極めて高價な消費生活を教へ、アメリカの消費物資を出來るだけ多く賣込む外交員の役割をたたくべきでない。またアメリカが比島に築いた道路も、如何なる山間僻地にも多くの物資を運ばせようとする輸送路に過ぎなかつた。かゝる巧妙な商業政策によつて皆抜きにされた比島産業は全く自主性を失ひ、比島に流れ込むアメリカの膨大な消費物資の代償として、アメリカが必要とする物資のみを生産させられてきたのである。

「かゝる獨立」とともに、比島は積極的に東洋への市場を開くと共に、経済的にも對米依存は昔の參、大車並に強力な一環として堂々自主自治の道を邁進することになつたのである。

撮影 同盟通信社









☆ 兵隊さんの雑記帳から ☆

詩

トッケーの詩

伊藤家兵衛

トッケー、トッケー  
トッケーは南方の大軍  
トッケー、トッケーと  
鳴く

自分達がハンコウに上陸した第一  
一夜  
こいつのけたま、ましい鳴き聲に  
かされた

續いては國境の峻険な山を  
越えるとき  
深夜のジャンプのこゝかしこ  
強行軍に疲れてた身にささい  
ほど

そのかん高い鳴き聲がひびいて止  
まなかつたことを思い出す

が、今日ではもうすっかり  
染みて

トッケーの鳴き声は兵隊達が  
しがる

トッケー、トッケー、トッケー  
「ほら、キリ出したぞ」  
耳を預ける兵隊の顔には白く  
ひがみ

見たとこ、恰好はまことに怪  
しかり人には害を及ぼさぬと  
この頃では却つて、こいつの鳴き  
のこさへ思はれる

……遠くビルマへの征伐すてに  
一年半



天竺木鼓

天竺

愛馬と共に

挺進だ

馬は近いぞ  
青じよきけ  
愛馬と共に

（五）  
高嶺の空  
今ぞ軍旗の  
路の首も  
愛馬と共に

（四）  
十字の火  
この夜襲  
愛馬と共に

（三）  
嗚れわたり  
大城大  
高きかに

（二）  
進軍だ  
急進だ

（一）  
雲もない  
うるさかろ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

（一）  
急進だ  
急進だ

俳句

秋草の中に胸あり小休止  
秋草の流れ寄る瀧に馬洗ふ  
飯を運ぶ木桶の道を急ぎ  
稻穂飛び泥川の陰にキキウ  
いなづか一瞬に見ゆ糸畑  
初秋の風に逢ひたり討行  
日盛りに母の遺愛の守護下  
日盛りに展望哨の旗ゆれず

花椰子や門の表札日本文字  
雨手深き草を灯せるホテルかな  
靴擦れに苦しき子らに合歌散りぬ  
椰子の實を浮べて雨手の水返し  
拾遺器のめたく釋迦頭影あり  
（註）釋迦頭は南方の果實の一種  
タカログ語でアナスといふ

西川比呂志  
國建ちてビルマ國原線萌ゆ  
國生みの光輝く、バゴダ最  
水浴や紅き水浴巾はけり  
雨誘ふ虹の聲や合歌の花

秋野 著作  
黄砂熱に撃ちてしやまむ鉄騎く  
紅生草がしも雲の夏開けて  
鉄おきて地せんさいをすける汗

古川 秀男  
城壁のこはれし柵や草枯る、  
娘々地獄極楽野は枯る、

加藤 信一  
野火遠き月下の原を動哨す  
ドリアンになれて征旅の日詰かく

中西 佐一  
月白く古塔に映えて春更けぬ  
防軍線敵機来ずして水溜り  
戦友を心にしみぬ虫の聲

原田 雷次  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

川柳

菊を手に遺児は如きしを指す  
戦友は心静かに虫を聞く  
螢一つながれて闇のひそかなる  
黄なる月貨車ひつそりと遠のきぬ  
立哨や鉄剣に響く雪の音  
月白く古塔に映えて春更けぬ  
防軍線敵機来ずして水溜り  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

短歌

渡河川流合開きてふと仰ぐ夜空に流るる流星のあり  
月細く傾きゆきて我なほも健在なりき突撃を待つ  
ふるさとの初夏に逢ひたる友はいま南の島に引きこもらず  
梅雨晴れの池に茂衣をすまきつゝ春門を見れば釣竿の影  
指揮塔の横にさしたるジャズミンは芽吹きをまに立枯れぬはや  
清流に海老を刺すてふ苦力のあなとりがたき枝をみたりき  
水増して濁流速き淵に立ち今日も糸たれ小まきを釣る

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

和野 重雄  
戦友を心にしみぬ虫の聲  
戦友を心にしみぬ虫の聲

陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

陣中人形  
陣中人形

十月

一 日 ●一、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におおむねマロモン島にお  
よびマロモン島に軍用せる有力な  
敵軍と交戦中なり。（二）ペララ  
島の帝國陸軍守備隊は九月三日  
以来、同島北西部において有力  
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま  
での戦況において敵兵七百二十を  
捕し、多数の戦獲品を得、今なほ激戦  
中なり。

二 日 ●二、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におおむねマロモン島にお  
よびマロモン島に軍用せる有力な  
敵軍と交戦中なり。（二）ペララ  
島の帝國陸軍守備隊は九月三日  
以来、同島北西部において有力  
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま  
での戦況において敵兵七百二十を  
捕し、多数の戦獲品を得、今なほ激戦  
中なり。

三 日 ●三、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におおむねマロモン島にお  
よびマロモン島に軍用せる有力な  
敵軍と交戦中なり。（二）ペララ  
島の帝國陸軍守備隊は九月三日  
以来、同島北西部において有力  
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま  
での戦況において敵兵七百二十を  
捕し、多数の戦獲品を得、今なほ激戦  
中なり。

四 日 ●四、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におおむねマロモン島にお  
よびマロモン島に軍用せる有力な  
敵軍と交戦中なり。（二）ペララ  
島の帝國陸軍守備隊は九月三日  
以来、同島北西部において有力  
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま  
での戦況において敵兵七百二十を  
捕し、多数の戦獲品を得、今なほ激戦  
中なり。

五 日 ●五、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におおむねマロモン島にお  
よびマロモン島に軍用せる有力な  
敵軍と交戦中なり。（二）ペララ  
島の帝國陸軍守備隊は九月三日  
以来、同島北西部において有力  
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま  
での戦況において敵兵七百二十を  
捕し、多数の戦獲品を得、今なほ激戦  
中なり。

六 日 ●六、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におおむねマロモン島にお  
よびマロモン島に軍用せる有力な  
敵軍と交戦中なり。（二）ペララ  
島の帝國陸軍守備隊は九月三日  
以来、同島北西部において有力  
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま  
での戦況において敵兵七百二十を  
捕し、多数の戦獲品を得、今なほ激戦  
中なり。

七 日 ●七、マロモン方面その  
後の戦況は依然熾烈にして  
（一）コロンバンガ島の帝國陸軍  
守備隊は連日自衛におよぶ敵機空  
襲の下におお





日毎に鳥海山を仰いで  
は増産を誓つてきた時  
春の暮りも取入れられ  
た。新穀に性され大入  
取増産の意。一畝の  
刈田のはてに鳥海の山  
も今日は日本晴れだ



秋穫のよるとびと感謝を直ちに今  
次の食糧戦へ打ちこんで出動した  
勤勞奉仕隊は、昨日までの刈田に  
今日は早くも家の掃きつけだ。寒  
地の水田に二毛作を實施するお百  
姓さんの決意と自衛。これこそ日  
本農業技術の勝利でもある



山形縣大宮村

# 新穀への感謝

## 新たな増産へ

庄内米の誇りをかけて  
どじょうと共立食糧と奮へた戦い  
戦ふ日本の戦中、こゝに

大地の恵みに感謝する心  
戦中、こゝに

### 十二月の常會

#### 新穀に感謝しませう

「拾りの秋」といへば、何を言ふか、心豊  
かな喜びをもつて、われわれに、  
の平和な黄金の波打、田園風景を思ひ描  
かせてくれますよ

悠久の古へ、大田大田が、下葉民の  
生産資料たるべきもので、  
れ、御津津の御つた種を、大田田、  
長田に御栽培になつてこのかた、  
に生を受けた農民の日々の食糧と、  
この賜はつた種子を、四時共に厚い御々  
の御守護と、お百姓さん達の善苦と汗の  
結晶として生育してきたもので、  
一粒の米にも無限の神恩と卓因、農家の人  
人の善苦がこめられてることを思ひ、心  
からの感謝を捧げようではありませんか。  
ことに、この決戦下の農時では、人、肥  
料等の不足の上に、今年はまだ、  
なかつた天候に打ち克つて、戦ふ食糧を  
確保してくれた努力と、樂觀を感ずるさな

ニッケルや銅等の補助貨  
は残らず引換へませう

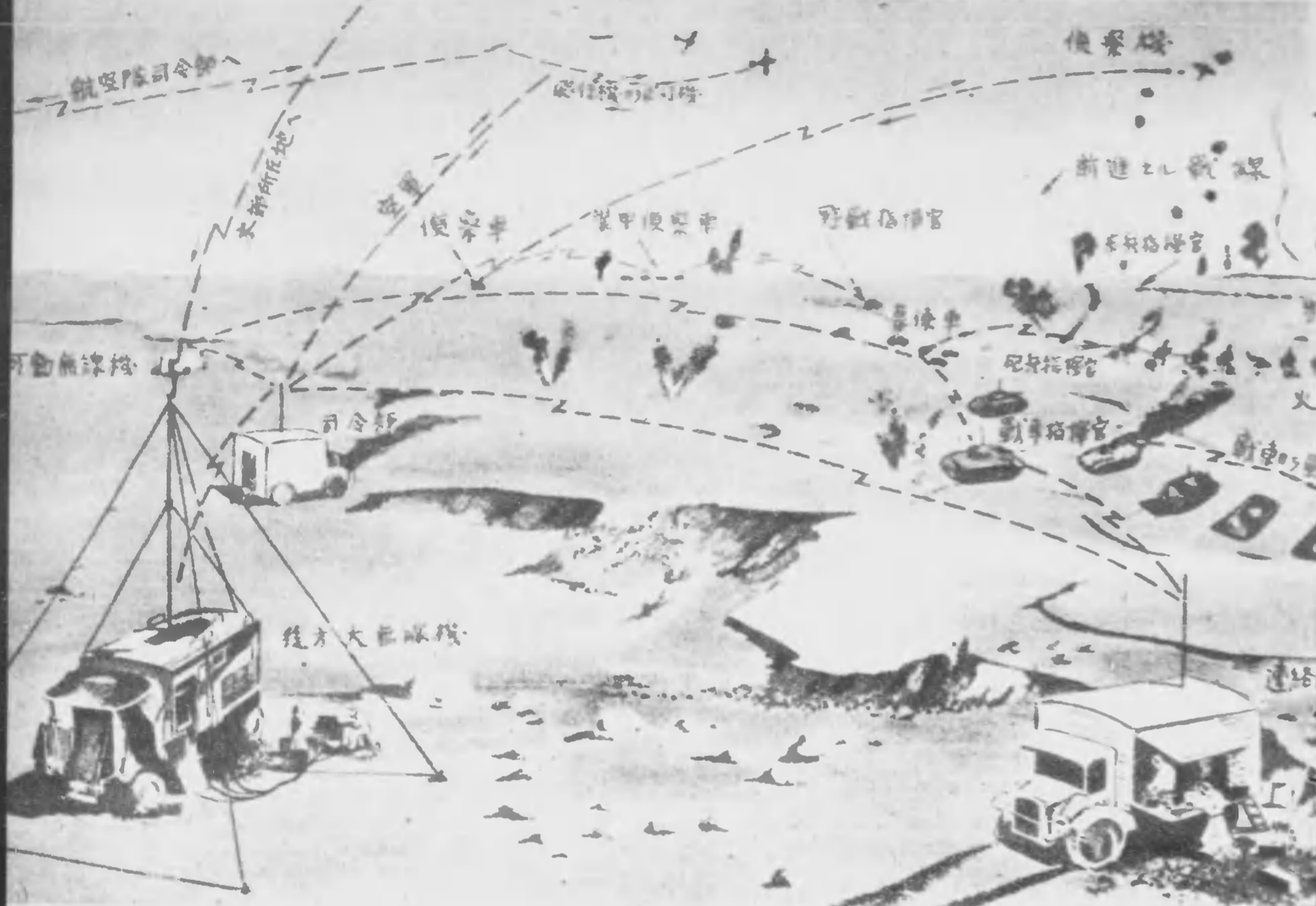
今日の常會では、この他に白銅貨、銅  
貨、ニッケル貨、銀貨等の古い補助貨を  
一枚のニッケル貨の武器にするために、  
隣組、部落會、町内會等で取組んで引換  
へておこなふことを實行させよう。飛行機に  
も、軍艦にも、戦車にも、どうしても必要  
なものです。財布の底に一枚でもあつたら  
残らず決戦場へ送りませう



# 4 學科の器兵新

# 電氣通信兵器

野戰無線通信系



# 電氣と兵器

第二

第三

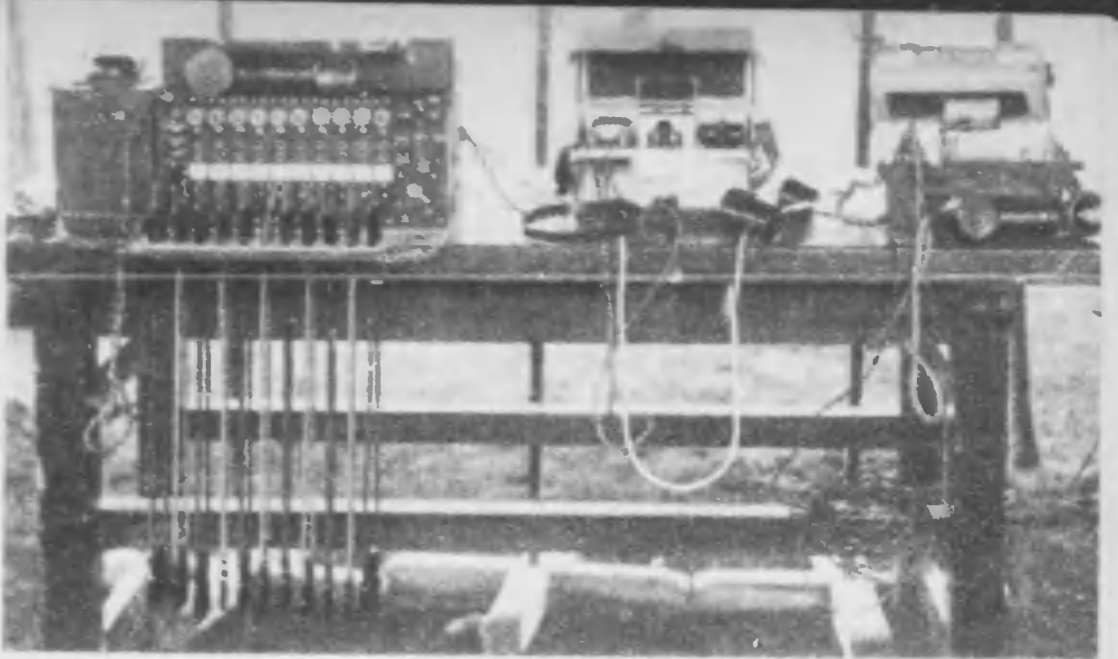


手記用無線機



無線電信機

近代科兵器には電氣が利用されてゐないものはないといつてよいほど、電氣は戦争に重要なものである。従つて、電氣を使った兵器すべてを説明することは到底不可能なので、そのうちで通信兵器の一部と、將來の新兵器の一端とをこ紹介しよう



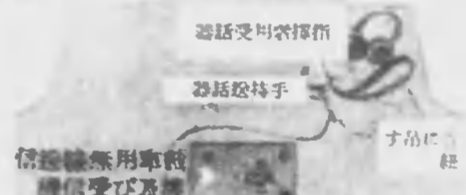
第一

## 通信兵器

電氣通信兵器は大別して、有線、無線及び特殊通信の三つに分けることができる。これら通信兵器の原理は一般の通信機と變つたところはないが、軍用に用ひるため、その構造や形状をそれ／＼の用途に適當したやうに改良されてゐるのである。第一圖は今大戦において改良された英軍の有線通信器材で、左端は十回線用交換機、右二つは野戦で用ひる電話機のための材料や人馬、車輛等、戦時においては莫大な需要に上るのである。又、近代戦の機械化に伴ひ



第五



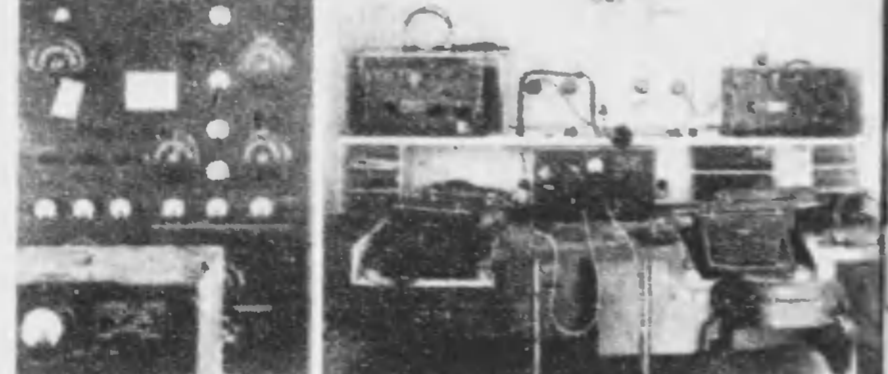
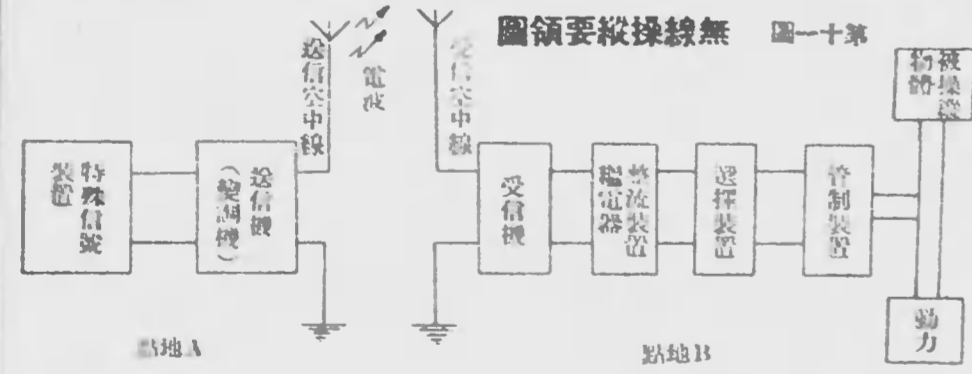
第六

## 無線自動車



その架線法の迅速なことが戦時上、重要な要素となつてきたため、自動車を利用したり、また特殊の架線車等を採用してゐるのである。無線通信は架線の必要もなく、便利ではあるが、電波といふものは空間を伝へるから、味方の通信内容を敵に盗聴される危険が多く、秘密保持の點では到底、有線通信には及ばないのである。

然しながら数キロの遠距離通信とか、海峡や山岳にはゞまれて架線のできないやうな場所とか、或ひは急遽に移動をせねばならぬやうな場合や、飛行機と地上の連絡、戦車間の通信等、どうしても無線によらねばならぬ場合が極めて多いのである。従つて無線通信を行ふ場合には、まず第一に秘密保持の手段が講ぜられ、秘密無線機等も盛んに研究實施せられてゐるのである。第二圖は近代の戦場において、無線が如何に使用されるかを示す系統圖の一例であつて、小は一人の斥候兵が携帯し得る小型無線機から、大は通信車で運搬する大型無線機まで、それらの用途に應じて各種の無線機が裝備されてゐる。第三圖は英軍の使用してゐた一人用小型携帯無線機で、行進中でも簡単に受信できるやうになつてゐる。第四圖も携帯用無線機であるが、これは斥候兵が用ひ得るやうに、特に叫喚送話機（これは第五圖のやうに咽喉に當つて用ひるもので、聲を用いずに咽喉の振動をもつて送話できるものである）を備へてゐて、敵前でも聲を出さず秘密に通信できる装置である。



第九

電氣とは遠方の時々刻々に變化しつゝある光景、或ひは映像を電氣の作用により、時間の遅れなしに再生して観望し得る方法といふので、その原理は第十二圖に示す如きものであるが、要するに、現在ラジオや音響や音楽等が無線送られてゐるやうに、實際の景色や音響が無線で送られたところに送り、それを活動寫眞のやうに見得る装置であると思へばよい。このやうな装置は、既に大分以前から實驗せられ、軍用にも用ひられようとしてゐるのである。即ち、この装置の送信機を飛行機に乗せて敵地偵察をすれば、直ちにその敵地が後方の司令部に送られて、作戦の指導もできるし、また暗視装置（テレビジョン）を用すれば、夜間や雲の上からでも使用できるわ

無線機は現在どの程度に用ひられてゐるだらうか。勿論、各國とも秘秘にされてゐて、その内容を知らねばならないが、無線機による地盤の探検や船舶の探検は既に實用化されてゐるやうであり、飛行機に對しても、アメリカでは高射砲の訓練用の標的機として無線機探検式小型飛行機を使用してゐり、將來、無人戦車や無人飛行機の操縦等、如何に發展してゆくかは甚だ興味ある問題であらう

電氣 (テレビジョン)

無線機は現在どの程度に用ひられてゐるだらうか。勿論、各國とも秘秘にされてゐて、その内容を知らねばならないが、無線機による地盤の探検や船舶の探検は既に實用化されてゐるやうであり、飛行機に對しても、アメリカでは高射砲の訓練用の標的機として無線機探検式小型飛行機を使用してゐり、將來、無人戦車や無人飛行機の操縦等、如何に發展してゆくかは甚だ興味ある問題であらう







寫眞週報 昭和十八年十月廿七日 印刷發行



貯蓄銀行業務御取扱

普通貯蓄金 五十五兆  
据置貯蓄金 十兆

# 三和銀行

本店 大阪 三橋

寫眞週報  
(禁無斷轉載)

昭和十八年十月廿七日 印刷發行

編輯者 三和銀行

印刷局 三和印刷局

發行所 三和印刷局

定価 一部十銭

送料 送料別

特設の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

其の都度郵費を 申し受けます

▲特別の場合は 郵費別

内閣印刷局印刷發行

※送料別 A4 切手定価は 3 分の 1 の 寄本